

会議結果

次の附属機関等の会議を下記のとおり開催した。

附属機関等の名称	平成29年度第1回みよし市総合教育会議		
開催日時	平成29年9月22日(金)午後2時から午後3時40分まで		
開催場所	みよし市役所6階 601・602会議室		
出席者	市長：小野田 賢治、教育長：今瀬 良江、 教育長職務代理者：古田 みどり、教育委員：久野 元典、 教育委員：藤森 猛、教育委員：天野 博道 政策推進部長：増岡総一郎、政策推進部参事：佐藤正美、 教育部長：柴田圭一、教育部参事：吉澤通記、 政策推進部次長：溝口洋、教育部次長：深谷幸広、 企画政策課長：竹内勇治、教育行政課長：廣瀬敏文、 歴史民俗資料館館長：久野俊人、学校教育課長：新美貴宏、 給食センター所長：渋谷昌代、スポーツ課長：深谷鐘治、 生涯学習推進課長：山崎正勝、生涯学習推進課主幹：村山孝文、 企画政策課主任主査：三浦良、教育行政課主事：一丸理子 傍聴者：なし		
次回開催予定日	未定		
問合せ先	企画政策課 担当者名 三浦 電話番号0561-32-8005 ファックス番号0561-76-5021 メールアドレスkikaku@city.aichi-miyoshi.lg.jp		
下欄に掲載するもの	・ 議事録全文 ・ 議事録要約	要約した理由	
審議経過	1 開会 2 あいさつ 3 議題 (1) 今後のみよし市の英語教育について (2) 教職員の多忙化解消について 4 その他		

開会
＜起立、礼＞

【企画政策課長】

ただ今から平成２９年度第１回総合教育会議を開会いたします。最初に、小野田市長がごあいさつを申し上げます。

【市長】

平成２９年度第１回みよし市総合教育会議を招集しましたところ、ご多忙の中、教育長及び教育委員の皆様にご出席をいただき開催できますことに、まずもってお礼を申し上げます。

平成２９年度は、教職員の研修拠点としてのみよし市教育センター「学びの森」の開設や、ＩＣＴ教育推進としてのタブレット端末の試験導入のほか、新たに中学校３年生での少人数学級の実施を行い、教育内容の充実を図っているところです。

また、北中学校の大規模改修や、北部小学校及び緑丘小学校の体育館の非構造部材の耐震化工事など、安心して快適な生活と学びができる学校教育環境の整備を進めています。

平成３０年度は、サンアートの大規模改修をはじめとした大きな事業の他にも、皆様の意見をお聴きしながら進めていかなければならない事業が多々あります。限られた予算を有効に活用しながら、みよしの未来への投資である教育の充実を図っていかねばならないと考えています。

この総合教育会議は、首長と教育委員会という対等な執行機関同士の協議及び調整の場であります。教育委員の皆様と忌憚のない意見交換を行いながら、「みよしの教育」の一層の充実を図ってまいりたいと考えておりますので、皆様のご協力をお願い申し上げ、会議開催にあたってのあいさつとさせていただきます。

【企画政策課長】

ありがとうございました。続きまして、今瀬教育長からごあいさつをいただきます。

【教育長】

本年度第１回目の総合教育会議を開催していただきありがとうございます。今までも教育に関しては十分にご理解をいただいております。教育振興基本計画に基づいて着実に教育行政を推進できるよう、予算等の配慮をいただき感謝しております。

先程も市長のお話にありましたように、学びの森の開設や３５人学級の実現等、教育環境の整備と充実が近年急速に進んだと思っております。しかしながら、新学習指導要領の実施は２年後に迫っており、道徳の教科化や小学校５、６年の外国語科や３、４年の外国語活動の移行措置が始まります。また、教員の多忙化等、多くの課題がありますので、この場

をお借りしてさらに教育行政に対するご理解を頂けるとありがたいと思っております。

教育委員の皆さんにおかれましては、せっかくの機会ですので積極的なご発言をいただき、今後の教育行政の推進にお力添えをいただきたいと思います。本日はよろしくお願いいたします。

【企画政策課長】

ありがとうございました。

ただ今から議事に入ります。「みよし市総合教育会議運営要領」第4条第1項の規定により、この後の議事につきましては、小野田市長に議長をお願いいたします。

【市長】

それでは、議長として議事の取り回しをさせていただきますので、皆様のご協力をお願いいたします。なお、会議録の作成につきましては、「みよし市総合教育会議運営要領」第7条の規定に基づき、教育行政課一丸主事をお願いします。

議題1 「今後のみよし市の英語教育について」

【市長】

最初に、議題1 「今後のみよし市の英語教育について」を議題とします。担当者から説明をお願いします。

【学校教育課長】

今後のみよし市の英語教育について説明します。本市における英語教育の現状として、小学校高学年では年間35時間の外国語活動を実施しています。内容としては、ALT及び外国語活動対応非常勤講師と担任とのティーム・ティーチングによる指導を行っています。

今後についてですが、小学校においては、新学習指導要領が平成32年度から全面実施となります。平成30年度、31年度については移行期間となっているため、外国語活動の時間を中学年、高学年ともに15時間以上を上乗せして実施します。その場合の授業時間数の確保やALT・外国語活動対応非常勤講師の増員については、考えていかなければなりません。現在、校長・教頭・教務主任等の代表に各学校の意向を聞きながら、教育課程検討委員会を進めているところです。

他市町でも同様に、外国語活動の時間数や取り組み内容については検討していると聞いています。

【市長】

ただいまの説明につきまして、質問や意見のある場合は、挙手のうえ、ご発言をお願いいたします。

【藤森委員】

小学校の外国語活動は現在の授業時間数の枠内で行うということですが、中学校において外国語活動の時間を増やすこ

とはできるのでしょうか。

【学校教育課長】

中学校につきましては、英語の時間が増えるということではなく、現行のカリキュラムで対応できると考えています。今回は、小学校での外国語活動の時間数の増加について検討しています。

【市長】

外国語活動の内容は変わらないのですか。

【学校教育課長】

内容は少し変わります。これまでの小学校高学年の外国語活動の目的は英語に慣れ親しむことでしたが、今後はこれに読むことと書くことが加わり、中学校での英語に繋がっていくことになります。それにより、中学校での内容も少し変わります。

【市長】

全体的に底上げしていくということですか。

【学校教育課長】

はい。

【藤森委員】

外国語は四領域といって「書く・読む・聞く・話す」の4つが必要です。日本人は、「聞く・話す」が圧倒的に欠けているため、結果として外国語が苦手といわれています。中学校の授業時間数を増やすことができない中でみよし市独自で外国語教育を伸ばすには、授業以外で何かをしなければなりません。

そこで、四つの提案をしたいと思います。まず一つ目は、英語教育の成果がわかりやすい英検についてです。市内の中学校全てを英検の受験会場にしていかがでしょうか。また、受験料の一部を市で負担し、多くの中学生が3年生までに4級、3級を受験するようにすれば、目に見えて成果が出ると思います。

二つ目は、市独自の教材の開発です。そのためには、英語の先生を活用する必要があります。みよし市は、友好都市であるコロンバス市へ中学生を派遣して交流していますが、これからは友好交流ではなく実務の交流にしても良いのではないのでしょうか。現在コロンバス市へ派遣されている生徒は各学校2名ずつですが、全体の英語力向上のためには他の生徒にも交流の機会が必要です。例えば、教育親善大使が来日した際に各施設で話したことを録音し、みよし市独自の英語の会話の教材を作ってリスニング力の向上に役立ててはいかがでしょうか。授業時間が足りないのであれば、給食の時間に放送しても良いと思います。身近な施設に関する英会話なので、子どもたちも興味を持てるのではないのでしょうか。

三つ目は、レディースカヌー大会の復活です。この大会は、2004年の世界カヌーポロ選手権後に終了し、現在まで開催されていません。大会が行われていた当時、100人近くの市民が通訳ボランティアとして登録していました。また、市内の中学生がボランティアとして参加し、各国をそれぞれの学校が応援していました。外国語教育にとって非常に良い機会であったと思います。ただ、予算の面もあり毎年開催す

るのは難しいと思いますので、3年に一度、中学校在学中に一度は外国のチームと触れ合う機会を作っていただきたいです。カヌー関係者だけの大会にするのではなく、そこに学校交流も含めていただくことで、「カヌーのまちみよし」の推進にも繋がると思います。予算の制限があるとは思いますが、みよし市の子どもたちの外国語教育の一端として、レディースカヌー大会を復活していただきたいと考えます。

私が今考えていることを述べさせていただきました。授業の中での活動には制限があり、先生の負担が増えてしまいます。英語力の向上のためには、先生の負担が増えないよう、授業以外のところで力を入れる必要があると思いますので、ぜひご検討ください。

そのために、四つ目として、外国語教育のための検討委員会を立ち上げていただきたいと考えています。

【古田委員】

以前中学校で英検や漢検を受験できていたことがあったと思うのですが、何か理由があってなくなったのでしょうか。

【市長】

私が教員をしていたとき、中学校が英検の会場になったことがあります。ただ、監督等をするのは教員ですが、報酬をもらうことができないためボランティアとなってしまうといった問題があり、会場とするのをやめたことがあります。みよし市でも、そういった経緯があったのではないかと考えられます。

【藤森委員】

教員は公務員のため、監督費を受け取れないというのは大きな問題ですね。

【古田委員】

受験する子どもたちにとっては、慣れた教室で知っている先生の監督のもと受験できるのはリラックスできて良いのですが、いろいろと問題があるのですね。

【藤森委員】

大学受験で採用される流れになっているのは英検とTOEICですので、やはり英語教育の推進にそういった受験は欠かせないと思います。

【久野委員】

小学校で英語が始まると、ALTや補助員が入ったとしても、担任がある程度授業をしなければならない場面は出てくるのではないのでしょうか。そうすると、先生が多忙の中で英語を覚えなければならず、小学校の先生の負担は大きくなると思います。

【市長】

授業は免許を持った人しか行えないため、免許を持たないALTや補助員だけでは授業として成立しません。そのため、必ず先生が入ることになります。

【久野委員】

今回授業数を増やすということですが、ALT等はどれくらい必要になるのでしょうか。

【藤森委員】

現在、市内8校でALT3名と外国語活動対応非常勤講師

	4名がいるということですが、少ないと感じます。 【教育長】 現在行っている5、6年生の年間35時間は、全てALTまたは補助員によるティーム・ティーチングができていますので、その分の人員は確保できています。ただ、授業時間数を増やした場合は現在の人数では足りないため、増員できるように予算要求していく予定です。 【古田委員】 具体的には何人の増員が必要となりますか。 【教育長】 現在と同じ内容の授業を行おうとすると、5、6年生は授業数が倍になりますので2倍、さらに3、4年生でも35時間実施しますので、単純計算すると全体で3倍の人員が必要になります。ただ、先生たちも研修を受けて指導力を上げていきますし、文部科学省からは最終的には担任が授業をするように指示されています。しかし、英語の授業としては、グループに分かれて活動することも多く、大人が複数で指導をした方が教育効果は大きいと思っています。 【市長】 中学校の状況はいかがですか。 【学校教育課長】 中学校にもALTは入りますが、英語専門の教員がいますので、全ての授業ではありません。 【教育長】 今回の学習指導要領改訂では、中学校の英語について、学習内容の変更はありますが総時間数は変わりませんので、小学校ほど大きな変化はないと考えています。中学校については以前から、オールイングリッシュの授業を目指しています。小学校の英語については、今まで5、6年生は「外国語活動」ということで楽しく活動していましたが、今後は教科となりますので、楽しいだけではなく単語の習得等も必要になっていきます。ただ、小学校ではいかに英語を楽しみを感じられるかが大切だと思っていますので、そこは気をつけて指導をしていかなければなりません。 【古田委員】 コロンバス市派遣報告会のときに、英語が通じたことがとても楽しかったと話している子どもたちが多かったことが印象的です。可能ならば、ALTが1校に1人いて、話しかけたら答えてくれる環境があると、英語を楽しみと感じてくれる子どもが増えるのではないのでしょうか。給食や掃除の時間等で身近に英語を感じられると良いと思います。そのためにも、ぜひALTの人数を増やしていただきたいです。 【藤森委員】 古田委員が言われたように、英語の時間以外でALTと関わることは効果的だと思います。例えば体育の授業で「跳び箱を跳ぶ」を英語で言ってもらう等、教材を教えるのではなく、日常生活で英語に触れられるというのはとても良いアイデアだと思います。 【久野委員】 その場合は英語の授業としてはカウントできませんよね。
--	--

	【教育長】 そうですね。 【古田委員】 英語を好きになるきっかけになりますよね。英語が通じると楽しいということがわかると、通じるために単語を覚えよう、今度はこの言葉を使ってみようと考え、頑張るのではないかと思います。 【天野委員】 小学校の英語は、中学校のように採点されないのですか。 【教育長】 平成32年度から小学校5、6年生は外国語科として教科になりますので、採点もされるようになります。 【天野委員】 点数をつけると、英語の得意な子と不得意な子がはっきり分かれてしまうように思います。英語になじむための時期として、点数をつけない時期としても良いと思うのですが。 【教育長】 今までは5、6年生がなじむための時期でしたが、それが3、4年生に下がってきました。今までみよし市では、独自に余剰時間を使って3、4年生でも英語を取り入れていましたが、今回の改訂で35時間の授業が必須となりました。ただ、3、4年生は教科ではないので採点もなく、楽しく活動できると思います。5、6年生は教科になりますので、テストの実施等、教員も戸惑うところが多いかと思います。 【市長】 小学校1年生から外国語活動を始めても良いのではないかと思います。話を聞いたところ、学校によっては行っていると聞きました。 【教育長】 1年生から始めている学校はあります。ALTの活用方法は自由ですので、学級ごとではなく学年で英語の集会をしたりゲームをしたりしています。これらは学校長の判断で行っています。3年生になって突然35時間の外国語活動を始めるとは大変ですので、1、2年生で少しでも外国語に触れる機会があると良いですね。 【藤森委員】 思いつきで申し訳ないのですが、コロンバス市の先生が来日したときに、その先生を審査委員長にして市内の英語スピーチコンテストを行うのはいかがでしょうか。せっかく来ていただくので、みよし市の英語力向上に一役買っていただくと考えた方が実りのあるように思います。 【教育長】 スピーチコンテストは英語の教員やALTで審査しています。来日との時期が合えば考えても良いと思います。また、先生が来日したときには、学校を回ってコロンバス市の紹介をしたり、子どもたちと触れ合ったりしています。 【久野委員】 ALTは個人との契約ではないのですか。 【教育長】 個人ではなく、プロポーザルで選ばれた派遣会社と契約し
--	--

	ています。中には給食の時間や放課に子どもと触れ合ってくれる人もいます。 【久野委員】 1年契約ですか。 【吉澤参事】 そうです。 【天野委員】 ALTはどういった人ですか。 【教育長】 外国人指導員助手といって、小学校の外国語活動と中学校の外国語科の授業を補助する人です。 【天野委員】 教師の資格は持っていないのですね。日本で生活をしている人ですか。 【教育長】 2、3年間の短期滞在の方もいますので、何かの理由で帰国が決まり、途中でALTが変わることもあります。欧米だけではなく、東南アジアをはじめ、各国から来ています。これから需要が増えていきますので、人手不足が心配されます。 【市長】 小学校の先生は研修会等に参加しているのですか。 【教育長】 夏休みを利用して研修を行っています。 【久野委員】 ALTの時給はどれくらいですか。 【吉澤参事】 時給5,000円くらいです。日本人の補助員だと時給2,800円ですので、どちらも組み合わせていかないといけません。 【久野委員】 時給5,000円は高額ですね。増やすといっても簡単にはできないのですね。 【教育長】 そうですね。地域には英語の得意な方もいらっしゃいますので、これからはもっと地域の教育力を活用する必要がありますね。また、教材も多く必要です。小学校によっては保護者が教材を作ってくださることもありますので、そういう助けを借りることも考えていかなければなりません。 ただ、いつまでも頼ってばかりではいけませんし、先生たちも徐々に慣れていくと思います。今回は一気に35時間増えますので、その対応は考えていかなければなりません。電子黒板を使って発音を聞いたり映像を見たりできる教材は増やしていますので、先生が発音に自信がない場合でも、子どもたちが本物の英語を聞けるようになっています。 【久野委員】 教材は充実しているのですね。 【天野委員】 校区によっては海外駐在経験のある人が多くいるところもありますよね。 【教育長】
--	---

そういう地域はボランティアとして多くの方が協力してくださっています。北部地区に多いですね。

【古田委員】

分散して他の校区にも行っていただけると良いですね。

【教育長】

北部地区以外にも海外から戻ってこられた方はいますので、こちらから声を出していく必要もあると思います。

【古田委員】

ボランティアを募集するときに、これくらいの英語ができれば良いとか具体的な基準があると応募しやすいと思います。自分のレベルでは先生としてできるか不安で、気後れしてしまう方もいると思います。

【天野委員】

「先生」として募集すると身構えてしまうので、募集方法にも工夫が必要ですね。

【市長】

ご意見も出尽くしたようですので、次の議題に進みたいと思います。ありがとうございました。

議題２「教員の負担軽減について」

【市長】

続きまして、議題２「教員の負担軽減について」を議題とします。担当者から説明をお願いします。

【学校教育課長】

教員の負担軽減について説明します。現在、小学校１年生から３年生と中学校全学年で３５人学級を実施しています。３５人学級は、一人一人にきめ細やかな指導ができることと同時に、ノート指導等の面で教員の負担軽減に繋がっていると考えます。

先程の議題にありました外国語活動についても、ＡＬＴ等の増員も目指していきます。

また、宿泊行事に養護教諭がついていくことで、校内に養護教諭が不在となることがありました。現在、その期間に非常勤養護教諭を配置し、校内の病気やケガに対応できる体制を整えていることで、教員の負担も軽減できていると考えています。

特別な支援を必要とする子どもが増えてきていますので、対応するための補助者を採用しています。

今後については、多忙化解消のため、行事や研修会等の時間や内容の見直しを図る必要があります。

現在、校務支援システムを活用し、成績処理や情報の一括管理を行っていますが、より良い運用方法について考えていかなければなりません。また、全ての小中学校で月に一度の一斉退校日を設けていますので、その徹底に努めていきたいと考えています。

【市長】

ただいまの説明につきまして、質問や意見のある場合は、挙手のうえ、ご発言をお願いいたします。

【教育長】

国や県は、最近になってこの問題をよく取り上げているのですが、みよし市の場合は約３年前に教育委員会で話題にいただきました。教育委員の研修でも多忙化解消をテーマにして視察に行ったほどです。そのときの教育委員の提言により、定時退校日を必ず設けるようになり、現在は全校で浸透しています。

【久野委員】

学校訪問で質問すると、遅くまで仕事をしている先生が多くいると聞きますので非常に心配です。

【天野委員】

それでは、以前はもっと忙しかったのでしょうか。

【古田委員】

残業時間は人によっては変わらない場合もあるかもしれませんね。

一斉の定時退校日にするのではなく、人によって定時退校日が違って良いのかなと思うのですが、何か不都合があるのでしょうか。人によって違えば、早く帰る人がいつも違うため、自分の定時退校日でなくても仕事が早く終われば帰りやすいと思うのですが。

【久野委員】

ベテランの先生は帰れるかもしれませんが、経験の浅い先生は帰れなくなってしまうと思います。

【教育長】

全校一斉ではなく、学年ごとにする場合もあるようです。

【久野委員】

不登校やいじめの問題が出てくると、なかなか早く帰るのは難しくなりますよね。

【教育長】

多忙化解消をさらに進めようと、先日、文部科学省の審議会に入っている妹尾さんという方をお呼びして、働き方改革について研修をしてもらいました。例えば、事務職員がもう少しできることはないか、行事や課題に対して早めに手を打てないかといった、いろいろな視点で業務を見直そうという話をされました。難しいことではなく、もう一度足元を見直すことで改善できることがあるということがわかりましたので、現場での成果に期待をしているところです。

【古田委員】

働き方改革について新聞に載っていたのですが、その中で時間になったら学校の電話を留守番電話にするというのがありました。また、先生の仕事としてプールの掃除や集金があることに驚きました。先程の話の中にもあったのですが、これらは先生の仕事なのかなと疑問に思いました。先生でなくてもできる仕事をする人を学校に置いてもらえると、先生たちの負担軽減になるのかなと思います。また、事務処理に時間がかかるという話もありました。会社だと庶務係があって、全員が処理を覚えなくても、担当が集中して事務を処理することで効率的にできますよね。

	【教育長】 市によっては事務補助員をつけているところもあります。国も検討していると聞いています。先生以外にもできる仕事に補助をつけることで働き方を変えていこうとしているようです。 また、先ほどお話しました研修会では、図書館司書や授業の補助員の空き時間に事務補助員を兼ねてもらうのはいかがでしょうかという話もありました。 【市長】 会社と学校が違うのは、今日残した仕事を明日に回すことができないことです。他のクラスの先生を手助けしようとしても、見ている子どもが違うため、難しい面があります。子どもと関わる時間は減らせないですし、むしろ増やした方が良いでしょう。子どもとかかわる時間を大切にするため、事務仕事は後回しになってしまいます。いかに事務量を減らすかが重要です。 【久野委員】 部活動はどうなっていますか。 【教育長】 土日のどちらかと月、木は休みという方向性を出し、ほとんどの学校で守られています。 【久野委員】 保護者対応にかかる時間も大きいですね。 【教育長】 対応が遅れてはいけませんので、なかなか難しいところです。保護者との信頼関係を作りながら、早めの対応を大切にしているところです。 【天野委員】 残業が月100時間を越えると労災認定されたり、うつ病等を発症したりすることが多いということで、監督者へストレスチェックが義務付けられましたよね。残業時間を減らさなければならないというのは時代の流れですから、教員も月の残業時間の上限を定める方向に持っていく必要があります。 【教育長】 市独自でつけている少人数指導対応非常勤講師は、教科の指導ができる方ですので、ティーム・ティーチングだけではなく家庭科や図工の授業を行う場合もあります。 【天野委員】 学校の業務の中で、外部委託できるものはないのですか。 【教育長】 今年度から環境作業員を配置して、今まで校務主任が行っていた草刈りや剪定等をしていただいていますので、とても助かっています。昔は校務主任にもそういった作業をする時間があつたのですが、今は教室に入らないといけないため、作業する時間が取れなくなっています。 【天野委員】 地域のボランティアの力を上手に取り入れることができるといいですね。 【久野委員】
--	--

	昔はP T Aが草刈り等をしていましたよね。 【教育長】 今でもしていますが、回数も少なく間に合いません。 【古田委員】 学校の先生たちはP T Aに優しいと思います。もう少し親の力を使っていただいても良いと思います。 【久野委員】 地域の人をお願いする場合も、お願いは先生がしなければならないので大変ですね。 【教育長】 日本全体で、学校は地域と協力して運営していくという流れになっていますので、これからもっと地域の人に学校に入ってもらえる時代になると思います。 【古田委員】 部活動は、昔から休みがなかったのですか。 【教育長】 最近は大会が増えたので土日の部活が増えたかもしれません。また、昔は小学校でも朝練をしている学校もありました。 【天野委員】 昔は部活に先生がついていませんでしたよね。 また、土曜日の半日授業がなくなった分を平日に振り分けているから忙しくなっているということはないのですか。 【教育長】 一時期、その分の授業時間は減っていたのですが、今はまた授業時間数は戻ってきて、土曜日の2時間分が平日に入っています。今度また1時間増えるため、3時間分が平日に入ることになります。 【天野委員】 だとしたら、先生の数も増えないとできませんよね。 【教育長】 土曜日の授業が減る前から学力低下を心配する声が多く、今は授業時間を増やす流れになっています。 【市長】 世間では、「ゆとり教育」イコール学力低下と認識されていますが、現在オリンピック等で活躍している人たちの多くはゆとり教育で育っているのです。ゆとり教育の本来のねらいは、子どもたちの主体性と生きる力を伸ばすことです。総合的な学習の時間等が取り入れられたのです。しかし、それでは学力低下を招くと言われ、また詰め込み教育をしようとなりました。このように、教育方法は時代によって行ったり来たりしていくのです。子どものことを一番に考え、自主的な学びの姿勢を身につけるような教育をしていかなければなりません。 【教育長】 先生たちも頑張っていますので、応援よろしくお願いします。 【久野委員】 先生たちが頑張らなければ忙しくないかもしれませんが、それでは子どもたちがかわいそうですからね。 【教育長】
--	--

	効率的な頑張り方を検討する必要があります。研修の内容も、同じ時間をかけるのなら充実したものにしていきたいですね。 【市長】 ご意見も出尽くしたようですので、ただいまの協議においていただきましたご意見を参考にさせていただきながら、今後の教育行政の充実を図ってまいりたいと考えております。以上で本日の議事は終了しました。 その他 【市長】 続きまして、「その他」として本日の議題以外で何かご意見等があればお願いいたします。挙手のうえ、ご発言をお願いいたします。 【古田委員】 たくさん意見を言わせていただきました。このような形でお話ができ良かったと思います。 【市長】 教育委員の皆様が言われたことは大事なことですし、いろいろな面で市政に反映されていきますので、貴重なご意見をいただけたと思っています。 【久野委員】 この総合教育会議は、いじめ問題がきっかけで開催することになったのですよね。いじめの話が出なくて良かったと思います。 【教育長】 今はありませんが、いじめの重大案件が起きたときの対応について、今年度中にはいじめ対策委員会で決めることになっています。 【市長】 いじめは早期発見、早期対応が大切ですし、知らなかったでは済まされませんので、先生たちのいじめに気づく力も必要です。 【久野委員】 そういった危機感を持っていただきたいと思います。 【市長】 それでは、本日の日程はすべて終了しました。 閉会 【企画政策課長】 以上で、平成29年度第1回みよし市総合教育会議を閉会します。 <起立、礼>
--	---